

阪 哲朗（特別選考委員／山形交響楽団 常任指揮者）

阪哲朗はヨーロッパでの客演も数多く、おもにドイツ、オーストリア、スイス、フランス、イタリアなどで約 40 に及ぶオーケストラ、歌劇場に招かれて成功を収めている。日本国内においても、多くのオーケストラ公演やオペラ公演を指揮しており、現在、山形交響楽団常任指揮者（2019 年～）、びわ湖ホール芸術監督（2023 年～）を務めている。

これまで、ビール市立歌劇場（スイス・ベルン州）専属指揮者（1992～97 年）、ブランデンブルク歌劇場専属第 1 指揮者（1997～98 年）、ベルリン・コーミッシェ・オーパー専属指揮者（1998～02 年）、アイゼナハ歌劇場（ドイツ・テューリンゲン州）音楽総監督（2005～09 年）、山形交響楽団首席客演指揮者（2007～09 年）、レーゲンスブルク歌劇場（ドイツ・バイエルン州）音楽総監督（2009～17 年）を歴任。ベルリン・コーミッシェ・オーパーでは、約 20 演目 170 回余を指揮。とりわけ、クプファー新演出「天国と地獄」、ホモキ演出「ファルスタッフ」、シューラー新演出「リゴレット」などが大きな話題を集めた。また、ウィーン、フォルクスオーパーでは、2008/09 年の年末年始に、同劇場のハイライトとも言うべき「こうもり」を指揮して好評を博した。そのほか、シュトゥットガルト歌劇場、スイス・バーゼル歌劇場、びわ湖ホール、新国立劇場、二期会、日生劇場などで多くの作品を指揮。ドイツ国内はもとよりヨーロッパ各地で指揮した舞台作品数は約 70 演目、通算公演回数は 1000 回以上にのぼる。オーストリアのレッヒ音楽祭には毎年招かれている。

日本国内においては、全国共同制作オペラ・野村萬斎新演出「こうもり」、びわ湖ホール・中村敬一演出「ばらの騎士」で成功を収めたことが記憶に新しい。一方、山形交響楽団と地域文化の担い手として県内各地でのコンサート、スクールコンサートなどに積極的に取り組んでいる。2020～2024 年にベートーヴェン交響曲全曲演奏会、2023 年から演奏会形式オペラシリーズをスタートさせている。また、インターネットでの配信も行い、新たなファンを獲得している。

京都市出身。京都市立芸術大学作曲専修にて廣瀬量平氏らに師事。卒業後、ウィーン国立音楽大学指揮科にて K.エステルライヒャー、L.ハーガー、湯浅勇治の各氏に師事。

1995 年第 44 回ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。1996 年京都府文化賞奨励賞、1997 年 ABC 国際音楽賞、2000 年京都市芸術新人賞、第 2 回ホテルオークラ音楽賞、2004 年第 12 回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2006 年第 26 回藤堂顕一郎音楽賞、2020 年京都府文化賞功労賞、2024 年第 75 回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

現在、京都市立芸術大学音楽学部指揮専攻教授を務め、東京藝術大学や国立音楽大学より特別招聘教授に招かれるなど、後進の指導にも取り組んでいる。